

吐鳳忌法要



小笠原登先生の志願に生きる

●愛知県あま市の出身で、ハンセン病絶対隔離政策と生涯闘った医師であり僧侶である小笠原登の事績を訪うのが「吐鳳忌法要」です。●小笠原登は、はるかに一遍上人絵伝にも描かれた、ハンセン病を患った人との触れ合いを伝える甚目寺観音の近くにある圓周寺に生まれました。祖父の願いで京都大学医学部に進み、皮膚科特研を拠点に、国家によるハンセン病絶対隔離政策に抵抗し、京都大学退官後も、無らい県運動が展開される時代に、医師として僧侶として隔離に抗い続けた人です。

●その五十回忌法要が二〇一九年十二月、名古屋別院において勤修されました。そして、死後五十年を迎えることも大きな機縁となり、映画『一人になる 医師小笠原登とハンセン病強制隔離政策』が制作されました。●圓周寺では「吐鳳資料展示室」が開設され、残された日記等を広く展示することで、より多くの人に、より親しく小

笠原登と出遇っていただけになりました。●一昨年より小笠原登が自ら名のつた「吐鳳」の名に独自の意義を見出し、「吐鳳忌法要」をお勤めいたします。●「らい予防法」廃止から三十年。いまだ隔離政策による被害当事者の苦しみは続いており、真の意味での「らい予防法」廃止は実現しておりません。私たちは、小笠原登の志願にあらためて向き合うことにより、ハンセン病問題の全面解決に向けて、隔離された者、した者が共に解放されていく社会の実現に向けて、歩みを進めてまいりたいと思

います。●どうか、すべての人々の人間解放への祈りに共感する願いの場、吐鳳忌法要にご参集くださいますようお願いいたします。

2026
10月
29日
木

吐鳳忌法要
とほうき

圓周寺

会場
真宗大谷派

午後 1 時～ 法要 午後 2 時～ 記念講演・対談

講師 くるべ こう 訓覇 浩 (真宗大谷派金蔵寺住職、ハンセン病市民学会事務局長)

講題 あらが 「小笠原登の抗いをハンセン病問題全面解決の力に」

対談 小笠原弘子 (圓周寺坊主)・山内小夜子 (映画「一人になる」制作実行委員会)

「吐鳳資料展示室」開室のお知らせ
小笠原登の日記などを展示しています
10月29日の開室時間 10:00～12:30

愛知県あま市甚目寺東大門 19 (お問い合わせ 圓周寺 TEL 052-444-0024)

●主催：吐鳳忌法要実行委員会 ●共催：真宗大谷派圓周寺
●後援：あま市、真宗大谷派名古屋教区、真宗大谷派名古屋別院
●協力：真宗大谷派ハンセン病問題に関する懇談会、映画「一人になる」制作実行委員会

どなたでも参加いただけます。



お東ネット